ここから。

大子ライフ

KOKOKARA DAIGO LIFE

興す・働く・暮らす
大子町移住促進ガイドブック

新しい人生に、
ちょうどいい町、大子町





「こ」は、大子町の言葉で「おいで」。

この冊子の名前「ここから。」にも、そっと「こ」が息づいています。

誰かに背中を押されて動きだす人生も、自分でそっと一歩を

踏み出す人生も、はじまりはいつも小さな決心から。

このまちで何かを興した人、まちを支えながら働く人、

そして四季とともに暮らす人。

ページをめくるたび、そんな一人ひとりの物語と、

大子の風景に出会えるはず。

まだ見ぬ日々が、あなたを待っています。

肩の力を抜いて、深呼吸をひとつ。

ここは新しい人生に、ちょうどいい町です。

さあ、あなたの物語を、ここから。

CONTENTS

ここから。
大子ライフ

新しい人生に、ちょうどいい町、
大子町



はじめに …… 1
この冊子の歩き方（目次） …… 3

興す ／ 大子で起業

大子町を詳しく知る ① …… 5
10の起業 …… 6

働く ／ 大子の仕事

大子町を詳しく知る ② …… 27
13の仕事 …… 28

暮らす ／ 大子の生活

暮らし・支援 …… 55
自然・歴史 …… 57
食・祭り …… 59

大子町MAP …… 61
INDEX …… 63
Editor's Voice …… 65

気候・四季／CLIMATE・FOUR SEASONS

大子町を詳しく知る①

大子町の気候

夏季最高気温
（観測極値）
39.0℃
清流の涼しさが
引き立つ夏

冬季最低気温
（観測極値）
−15.6℃
神秘的な氷結を
生む寒気

年間寒暖差
約24℃
四季の表情を
際立たせる気候

出典：気象庁ホームページ（2026年8月時点）

四季の移ろいと見どころ

春
3月〜5月

日ごとに暖かさが増し、桜や新緑が町を彩る春。木々が芽吹き、新緑が山々へ広がるなど、自然は少しずつ鮮やかな表情へと移り変わります。

寒さが和らぎ、桜が咲き誇る季節。八溝山系では、爽やかな新茶の季節を迎えます。

夏
6月〜8月

盆地気候ならではの力強い陽光が注ぐ夏。久慈川の清涼な川風とせせらぎが、贅沢な涼気と憩いをもたらします。

鮎釣りでにぎわう久慈川。炭火で焼き上げた「奥久慈鮎」は夏の訪れを告げる味わいです。

秋
9月〜11月

昼夜の澄んだ寒暖差が、秋に深い奥行きを与えます。樹上で完熟させた奥久慈りんごの豊かな風味が味わえます。

朝晩の冷え込みが深まるにつれて鮮やかに色づく山々。果樹園ではりんご狩りが最盛期を迎えます。

冬
12月〜2月

氷点下の静けさに包まれる冬。日本三名瀑・袋田の滝が白く凍り付く氷瀑は、大自然が描く至高のアートです。

澄み切った空気の中で広がる雪景色や星空の美しさは、冬ならではの自然美です。



興す

大子で起業

この町で、夢に手が届く。

都会にはない余白と、顔の見えるつながり。

大子には、想いをかたちにするための土壌がある。

10組の起業ストーリーをどうぞ。

Business







Business
DAIGO.01

大子で興す

大子での贅沢な体験に感じた可能性。東京との二拠点生活から宿づくりへ

一級建築士の和田真寛さんが、大子町の古民家をリノベーションして手がける「大谷石の蔵サウナと古民家宿DAIGO SAUNA」。コロナ禍をきっかけに東京と大子町の二拠点生活を始め、現在は蔵サウナ付き一棟貸しの宿として運営しています。

祖父母の記憶が移住を後押し

コロナ禍で都内での生活に窮屈さを感じ、「田舎に家を買ってみよう」と思い立ったのがきっかけです。

私の両親は大子町の出身で、妻の父親も大子町出身でした。幼少期から慣れ親しんだ場所だったため、他の自治体は検討せずに夫婦で「大子町にしよう」と空き家バンクで物件を探し始めました。

空き家バンクで見つけた建物は立派な古民家でしたが、庭などはかなり荒れた状態だったんです。しかし「なんかいいな」と直感的に可能性を感じ、購入を決めました。

二年越しの古民家宿づくり

当初は家族で行き来するセカンドハウスとして、時々民泊で維持費を回収できればいいという考えでした。現在は旅館業を取得し、サウナ付き一棟貸しの宿として本格的に運営しています。

物件購入と母屋改修費用で 2,000 万円超を借り入れてスタートしました。

内装工事など、地元の工務店などにお願いしたものの、膨大な廃材の搬出、庭木の伐採など、出来ることは自分でも作業しましたね。2021 年 10 月に物件引渡しから 2023 年 9 月まで、およそ 2 年かけお客様を迎えられるように準備してきました。



蔵サウナが生む口コミの輪

お客様は首都圏の20~30代サウナ好きと家族連れです。夏休みシーズンが大きく売り上げを伸ばしています。

『蔵サウナ』が口コミやインスタで評判を呼び、波はありますが徐々に経営が安定してきました。現在も東京に拠点を残しながら、大子町と行き来する二拠点生活を送っています。一級建築士として、都会の経済圏も必要なため、完全に東京を離れることは考えておらず、日々の管理は信頼できる地元スタッフに任せています。

まずは行き来から始めよう

例えば、都内で既に「暮らし」がある方は、都内と大子町の二地域に居住しながらの「起業」から初めてみると良いのではと思います。2つの拠点のバランスは、その時の状況で選べるくらいがいいと思います。現在は仲間4人と一般社団法人も立ち上げ、大子町全体をキャンパスに見立てた体験・学びのクラスを始動させました。移住の手前にある「関係人口」をつくる窓口になろうとしています。

まずは行ったり来たりを楽しみながら面白い人たちに会いに来てください。



和田 真寛 さん

大谷石の蔵サウナと古民家宿 DAIGO SAUNA

大子町の自然とまちの魅力を満喫できる、一棟貸しの古民家宿とプライベートサウナです。大谷石造りの蔵をリノベーションした薪サウナでは、セルフロウリュや里山を望む外気浴を楽しめます。家族や仲間と、非日常の癒やしの時間を過ごせる特別な空間です。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子354-11

Instagram　web







Business DAIGO.02

大子で興す

古民家を買ったら、畑がついてきた。そこから始まった、さつまいも農業

東京から大子町へ半移住し、二拠点生活を始めた川口さん。古民家にセットで付いてきた畑でさつまいも栽培を始め、大子町内で生産から六次化加工まで完結させる商品づくりを手掛けています。

出発点は古民家探しと人の温かさ

コロナ禍で外出が制約され、YouTubeで古民家再生の動画を見たことがきっかけで古民家探しを始めました。当初見ていた物件は別荘のような造りが多く、理想の古民家には出会えませんでしたが、大子町の空き家バンクでイメージ通りの物件を発見。何度も訪れるうちに町の魅力にも惹かれ、購入を決意しました。

敷地内の畑では、知人の依頼をきっかけにさつまいも栽培を始め、DIYと並行して農業にも挑戦。リフォームもほぼ自分たちで行い、床や柱、壁を直し、漆喰を塗るなど妻と理想の空間を作りあげていきました。購入費とは別に工具や材料を買い揃えたため、予想以上の費用がかかっていますが、今も手を加え続けています。その過程も楽しみながら、理想の暮らしを育んでいます。

ゼロからのさつまいも農業

農業は未経験からのスタートでした。隣家の農業委員の方に相談し、元の畑に加えて新たな畑を借り、さつまいもの栽培を開始。1年目は失敗の連続でしたが、県内の農家を訪ねて学び、農地にも恵まれ、現在2ヘクタールまで規模を拡大しました。農家の方々から農機具を譲っていただいたり貸していただいたりと、多くの支えのおかげで「おいしい」と言っていただけるさつまいもを育てられるようになりました。

最近では大学生のサークルと交流し、仕事でつながりのある企業を大子町へ紹介するなどして大子町の魅力を発信中です。さつまいも作りを通して地方ならではの豊かさやゆったりとした暮らしの魅力を感じてもらえたらうれしいです。



東京と大子をつなぐ

大子町の地域おこしに少しでも貢献したいという思いから、さまざまな取り組みを考えています。大子町と東京を行き来する経験を生かし、「大子町で生産したものを東京へ届ける」仕組みづくりや、販路拡大、物流コスト削減に取り組んでいます。将来は、空き家のリフォーム支援や畑の紹介、農機具の貸し出し、販路の提供までを含めた「移住・就農パッケージ」を地域と実現し、安心して移住・就農できる環境を整えたいと考えています。大子町での新しい暮らしという選択肢を、多くの人へ伝えていきたいです。

二地域居住で知る大子町の楽しさ

収益だけを考えるなら、東京での仕事に集中した方が効率的かもしれません。しかし、地方暮らしにはそれだけでは語れない魅力があります。大子町は買い物にも不便が少なく、都会すぎない落ち着いた環境と、人の温かさが魅力です。東京ではなかなか味わえない、どこか昭和の懐かしさを感じられる町でもあります。移住や二地域居住を考えている方には、ぜひ地域の人と積極的に交流し、大子町ならではの人の温かさや町の魅力を肌で感じてもらえたらと思います。



川口 さん

茨城県大子町の豊かな自然の中で育てたさつまいもや、地元の素材を生かした無添加プリンなどを製造・販売しています。素材本来のおいしさを大切に、一つひとつ丁寧に仕上げた商品を通して、大子町の魅力と豊かな食文化を全国へ届けています。

■Email　t.kawaguchi.nsdaigo@gmail.com
■オンラインショップ　nsdaigo.base.shop

web







Business

DAIGO.03

大子で興す

趣味だったコーヒーが大子町で自分らしい仕事になった

茨城県つくば市出身のオーナーは東京でのキャリアを見直したことをきっかけに、大子町での開業に踏み出しました。自家焙煎コーヒーの店舗営業とイベント出店を軸に、現在移住7年目を迎えています。

人生の転機と、大子との出会い

30歳という節目を前に東京でOLとして働く自分のキャリアを考え直すことにしたのが移住のきっかけです。県の起業講座に通い始め、半年間5回の講座を通じてさまざまな人と出会い、起業への一歩を踏み出す勇気をもらいました。その講座の合宿先が大子町でした。初めて訪れた大子の景色や空気がとても心地よく、この町にいたいなぁと感じたことが原点です。地域おこし協力隊という制度を知ったのも、その頃のことです。この仕組みなら、東京で出来なかったことを実現できるのではないかという期待と、もともと趣味だったコーヒーへの愛着が、大子での開業を後押ししました。

仲間と一緒に作り上げた店舗

この古民家は、協力隊の活動の中でご縁ができた方に紹介してもらいました。立地や広さ・現状など物件探しにはとても苦労しましたが、最終的に素晴らしい家に巡り合えたので、大子では人づての紹介が大きな力になると実感しました。改修は DIY で進め、ワークショップ形式で地元の方や起業仲間にも手伝っていただきました。お店で使っている古家具は祖母から譲り受けたものや、開業を応援してくれる知人や地元の方々から寄付していただき、多くの工夫や関わりのある方々のおかげで費用を抑えることができました。半年ほど準備を進め、2022 年 5 月に開店。当時はリフォーム中でしたが、施工の様子をお客さまに見てもらうことも今後のファンづくりにつながると考え、完成した 1 部屋のみでプレオープンしました。



カフェの運営と大子での生活感

現在は店舗営業に加えて、県北エリアを中心にイベント出店も行っています。1人で営んでいるため、出店が増えるほど店舗を閉めなければならない日も増え、そのジレンマは今もあります。大子での暮らしは、思ったより田舎ではないと感じています。車は必須で、急患のときに不便を感じることもありますが、買い物には困らないし、ご近所とのほど良い距離感が心地良いですね。地域の人たちにはとても良くしていただいています。移住前の2019年、台風による浸水被害があった時に災害ボランティアをしたことが縁でつながった方もいます。皆さんに支えられ、お店も5年目を迎えられました。

好きなことを、自分らしく続けること

事業を大きくするよりも、好きなことに取り組める時間を大切にしたいと考えています。そんな思いをお客さまと共有できたらと1人席と2人席だけの小さな空間で本を読んだり、景色を眺めたりしながら、自分の時間を大切にできる、そういうお店づくりをしています。店名には、新しい一歩という思いを込めました。移住や二地域居住を考えている方は、“ハジマリ”の一歩として気になる場所へ何度か足を運んでみることをおすすめします。



和田 まりあ さん

コーヒーと家具のお店 hajimari

自家焙煎のスペシャルティコーヒーと、こだわりの家具が調和する古民家カフェ。築150年の古民家をセルフリノベーションした温かな空間で、ゆったりとした時間を楽しめます。イベント出店や移動販売でも大子町の魅力を発信しています。

■住所　茨城県久慈郡大子町矢田654

Instagram







Business DAIGO.04

大子で興す

趣味を仕事に ～片田舎の理容室から 全国へ～

大子町出身の店主は、つくば市で働きながらレコードを集め続けていました。母親の高齢化を機に大子町へ戻り、実家の理容店の隣スペースを弟と改装して、古民家レコード「MELLOW」をオープンしました。

大子にUターンして実家を活用

以前はつくば市に住んでいましたが、家庭の事情で大子町に戻ろうと決めたのがUターンのきっかけです。

つくば市にいた頃も、店舗用の物件をいくつか探した経験がありました。しかし都市部は家賃が高く、店舗の維持費を考えるとレコードの販売価格まで上げなければならず、現実的な選択とは言えませんでした。

一方で大子町の実家は元々理容店を営んでおり、店舗スペースの家賃は不要です。販売の中心はネットを想定していたため場所にこだわらず、持続的に続けられると思い、実家を活用しようと決めました。

話題のレコードを扱う

実家の建物には、骨董品が趣味の弟が自分好みに整えていたスペースがありました。そこに「近年ブームになっているレコード屋にしたら面白いのでは」というひらめきが重なり、レコード屋としての活用を決めました。

「こんな山奥の町で、まさかお宝のレコードに出会えるなんて！」とお客さんが感動してくれると嬉しいですね。駅から徒歩圏なのでJR水郡線を使って慌ただしく帰る方もいれば、連休には東京や県外エリア、一番遠くだと愛知県から時間をかけていらっしゃる方もいます。大子町というロケーションで、レコードを探す行為自体が「宝探し」のような特別な体験になっていると思います。



「繋がり」が事業を育てる

移住してから気づいたのはカフェなどのビジネスを始めている魅力的な人たちがたくさんいたこと。レコード屋をオープンした当初は、自分からそんな方々へ積極的に声をかけて繋がりを持ちました。

そこからは人の紹介もあり、人間関係が自然と広がっていきました。事業を続ける上で、横の繋がりを自分から持とうとする姿勢は大切にしています。

中学生から80代まで、幅広い年齢層のお客さんが世代を超えてレコードの話で盛り上がるのは、店ならではの光景。また、月曜日は「常連さんの集まる日」、仕事帰りの5～6人が顔を出してくれます。

好きを武器に全国に届ける

移住して創業を考える人に伝えたいのは、「心から好きなことを軸に据える」という一点です。地方での開業は一時的には注目が集まり客足が増えても、やがて落ち着きます。好きなことなら、その時期も乗り越えられます。

一人で店を切り盛りする分すべての責任を背負う大変さもありますが、決めるのも進めるのも自分次第というやりやすさもあります。ネットを活用すれば、大子町でも全国からお客さんを呼ぶことは十分可能です。



岡崎 直人 さん

古民家レコード「MELLOW」

昭和レトロな雰囲気の店内には、シティポップや昭和歌謡をはじめ、洋楽・ジャズなど幅広いジャンルの中古レコードやCD、カセットが並びます。音楽好きがゆったりと過ごせる空間で、県内外から多くのファンが訪れる人気店です。

■住所　茨城県久慈郡大子町下野宮1650
■TEL　080-2020-4053

Instagram







Business DAIGO.05

大子で興す

一皿の奥久慈しゃも料理から憧れたラーメン屋の夢を実現

東京の郵便局で開業資金を貯めていた店主が、雑誌で紹介されていた奥久慈しゃもの料理に惹かれ、2022年に大子町へ移住。奥久慈しゃもなど地元食材を使ったラーメンの店「軍鶏と林檎」を、もとラーメン屋だった建物で開きました。

産地での起業に説得力あり

雑誌で銀座のレストランが「奥久慈しゃも」の料理を紹介しているのを見て、奥久慈しゃもに興味を持ちました。もともとラーメン屋を開きたいという思いがあり、奥久慈しゃもでスープをとったラーメンを作ってみたいと考えるようになりました。

奥久慈しゃもを使ったラーメン店として説得力やお店のストーリーを持たせるには、産地である大子町に移住して開業するのが一番。東京の大手町にある郵便局で働きながら資金を貯め、2022年に移住して起業しました。

独自技術と役場の縁で開業

奄美大島で「鶏飯」という料理でのスープの取り方を学んだ経験と、イタリアンレストランで麺料理に携わった経験があり、飲食をするとしたらラーメン屋が良いかなと元々思っていました。ラーメン専門店での修行経験はありませんが、経験を活かしてオリジナルのスープを生み出しています。

開業に向けて空き家バンクを利用しましたが、決まった物件はもともと空き家バンクに登録されていなかった場所。以前ラーメン屋だった建物を役場の担当者が何とか探し出してくれたおかげで、現在の物件を見つけられました。

地元生産者との信頼がカギ

起業して間もない頃は、良い食材を確保することに苦労しました。地元の生産者と丁寧に関係を築くうちに信頼を得られるようになり、質の高い奥久慈しゃもを安定して仕入れられるようになっています。



現在は地元の方も遠方からのお客さんもまんべんなく訪れてくれます。2時間ほどかけて来店する方もいてくれて、SNSや口コミで知って足を運んでくれる人も増えました。

大子町は人口が少なく、人材確保が一番の悩みです。一方で経営に関する細かい相談は商工会がいつでも受けてくれる点が、大きな安心感です。

移住者同士が支え合う環境

移住して驚いたことは、水のおいしさと、自然の緑の風景の美しさです。一方で、夏の暑さと冬の寒さは想像以上で、冬には水道管が凍って事業に影響が出ることもあります。

都会にいた頃と比べて、人との距離感の近さは大きく変わりました。近所のおばあちゃんが野菜を持ってきてくれることもあり、ぬか漬けにして楽しんでいます。夜歩いていてカエルの鳴き声が聞こえるのも、大子町ならではの豊かさです。

「移住してきた」という共通点で横のつながりが生まれ、困ったときに相談できる仲間がいます。お店が少ないぶん競争も少なく、人柄の良い人に囲まれて挑戦できます。やりたいことがあるなら、迷わず大子町に来てみてください。



しゃもりん さん

軍鶏と林檎

奥久慈しゃもの旨みを生かしたスープが自慢のラーメン店です。地元食材を積極的に取り入れ、一杯一杯を丁寧に提供。素材の持ち味を引き出した味わいと落ち着いた雰囲気で、地元の方から観光客まで幅広く親しまれています。

■住所　茨城県久慈郡大子町浅川3434-1

Instagram







Business DAIGO.06

大子の「いいもの」を駅前商店街から

大子で興す

大子商店の笠井さんは、大子町出身です。札幌での営業職を経て平成5年にUターンし、実家の商店からスタートした町おこし。様々な活動を経て「大子にしかない良いものを集めて発信したい」という思いで、駅前の空き店舗を活用した「大子商店」をオープンしました。

札幌から大子の町へ

以前は北海道の札幌市で電機メーカーの営業を4年間やっていました。戻ってきたのは平成5年です。外から大子町を見ると魅力的な場所。それでも駅前商店街はすでに元気がなくなってきている印象で、漠然とですが、「なんかやりたいな」と思ってUターンを決めました。まずは実家の商店を元気にしたいと思い、次にカフェの創業、ゲストハウスの運営など、様々な分野で活動をしてきました。そうした中で感じたことですが、町内には道の駅もありますが、並ぶ商品の中には町外で生産されたものも含まれています。大子産であることにこだわった品物だけを取り扱う店を駅前に構えたいという考えが、「大子商店」の出発点になりました。

幾多の壁を越えた店づくり

駅前の商店街では、浄化槽を設置するスペースの確保が大きな課題になりやすいです。近隣でも浄化槽を入れられるスペースが建物の裏にしかなく、運ぶ動線が作れない。営業をしたくても断念したという話もありました。密集した商店街ならではの事情ですね。

以前 daigo cafe をオープンした際は、物件の相続や登記の手続きに１年ほどの時間がかかりました。開業する際のインフラ周りや権利関係の整理は、必ず先にやっておくことを勧めます。

それでも一つひとつ課題を解決しながら進めてきたことで、地域の方々の協力にも恵まれ、店づくりを実現することができました。時間はかかりますが、その経験は大きな財産になっています。



商店街の回遊と新商品の開発

地方で開業するメリットは、物件が安く手に入ることだと思います。駅前の商店街という立地は、家賃を抑えられるだけでなく、お客様が近くの人気店からそのまま足を運んでくれる利点もあります。

今のお客様は観光客の方がメインですが、今後は地元の方が手土産にできるようなオリジナル商品を作ろうとインターン生やイバラキックの副業人材の方と動いています。今年の夏には、昨年インターン生と一緒に開発したかき氷を新たに販売予定。さらに秋には大子キッチンにオーブンを導入し、店で焼き上げたアップルパイを販売しようと準備しています。

スキルを持ち込み相談から

大子町には素材やコンテンツが多くありますが、それを生かすには自分なりの「スキル」を持ってくれば絶対に成功すると思います。確かな技術を背景に始めた店は、地域に根づいて長く愛されるはずです。「なんとなく」移住して起業しても、長く続けるのは難しいもの。まずは商売につながるグループや仲間などに相談し、事業者同士がつながる商工系の場に参加するのが近道です。ぜひ「まちの研究室」にもお声がけください。



笠井 英雄 さん

大子のいいもの「大子商店」

常陸大子駅から徒歩0分。空き店舗を活かしたレトロな店内には、地元の「いいもの」が勢ぞろい。店主の笠井さんはまちの研究室のメンバーとしても、イベントやワークショップ、まちづくりに関する情報発信を行い、新たな挑戦や地域のにぎわいづくりを支えています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子988-3
■TEL　0295-76-8830

Instagram　web







Business DAIGO.07

大子で興す

20年離れていても、ずっと繋がっていた故郷。美しい自然が見える工房で、ガラスのものづくりを

大子町出身の星野明宏さんは、40歳のタイミングで茨城県北地域おこし協力隊【起業型】に応募して都内からUターンしました。吹きガラス体験工房とショップ「ホシノガラス」をオープンし、「ものづくりに新しく挑戦できるまち」として大子を盛り上げています。

町の人の熱い姿に背中を押され

大子町で育ち、高校卒業後は東京に上京してガラス工芸を学び、ガラス作家として活動をしながら専門学校の講師をしていました。ただ東京にいる間も、大子町のことはずっと気にかかっていました。そんな中、「丘の上のマルシェ」で『まちの研究室』の木村さんと出会い、折に触れてメッセージをくれたり、SNSでも地域の情報をよく目にするようになりました。

その後、大子町の地域おこし協力隊の報告会に参加した際、大子町のために活動する隊員の皆さんの姿にも深く心を動かされました。メッセージやSNS等で繋がり続けてくれた木村さんの存在と、協力隊の皆さんの熱い姿に触発されたことも、大子町へ戻る決め手でした。

条件が揃った物件に出会う

「吹きガラスの体験工房」と「ショップ」を併設した拠点を作ろうと空き家バンクで物件を探しました。「水郡線が見える景色」「久慈川の近く」「美しい山並み」「駐車場」という好条件が揃った現在の物件に出会い、即決します。

元お米屋さんの建物を、柱と屋根だけ残してフルリフォーム。空き家バンクの補助金・空き店舗支援・新生活補助金をフルに活用させてもらい、コストも抑えられました。様々な補助金制度が充実していて、大変助けられました。

空き店舗支援は当初、街中エリアのみが対象でしたが、大子町役場に相談したところ柔軟に対象エリアを拡大してもらえました。



地域と繋がるものづくり

現在は「吹きガラス体験」「地域資源と掛け合わせた作品作り」「展示販売」という3つの柱を軸に事業を進めています。地元の農産物や大子町の「人」との繋がりを織り交ぜた作品作りにも取り組んできました。

今年度は協力隊の最終年度のため、「地域資源と掛け合わせた作品作り」と町内外での「展示販売」をメインに据え、任期後の自立化に向けて基盤を固めています。挑戦者を繋ぎ支える町の方々がいることが、大子町の最大の財産だと感じています。

チャレンジできる無限の余白

大子町には都会のように「新しいもの」がたくさん溢れているわけではありません。しかしそれは、まだ誰もやっていないことにチャレンジしやすい環境であり、自分がその分野の先駆けとして無限の余白があることを意味します。

今までチャレンジできなかったことも、思い切って飛び込めるチャンスです。頼れる先輩移住者や応援してくれる仲間がいるため、大子町で挑戦したい方は安心して最初の一歩を踏み出せると思います。



星野 明宏さんご夫妻

ホシノガラス

吹きガラス体験を行う工房。職人の丁寧なサポートのもと、グラスや小鉢など世界に一つだけの作品づくりを楽しめます。併設ショップでは、日常に彩りを添える手づくりのガラス作品も販売。大子町の新たなものづくりスポットとして親しまれています。

■住所　茨城県久慈郡大子町川山448-2
■TEL　090-8187-1169（予約専用10：00～17：00）

Instagram







Business

DAIGO.08

大子で興す

夢だった宿の運営、SNSでの偶然のつながりから始まったチャレンジ

SNSを通じて知り合ったオーナーから宿を貸してもらい、「まちやど『Motomachi』」として運営している岸本さん。商店街の一角にあるゲストハウスで、日々の業務を担っています。

SNSの縁が起業の扉を開く

以前から「宿系の仕事をしたい」という思いがあり、北海道から東海地方まで幅広いエリアでゲストハウスを調べていました。大子町との繋がりはなく、FacebookやInstagramで前運営者と繋がったことが、この場所との縁を結びました。

公に募集されていたわけではありませんでしたが、どのような宿なのか興味を持ってやり取りを重ねるうちに、「今ここをやる人がいない」という現状を聞かされました。実際に大子町へ5回ほど足を運び、話を伺う中で「挑戦してみないか」と打診されたことが、移住を決断した最大の理由です。

既存の宿を引き継ぎ挑戦

長年温めていた宿の仕事を形にする絶好の機会と捉え、この宿をお借りし大子町の発展に少しでも貢献しつつ、自分自身も成長したいと考えました。

すでに稼働実績のある宿を引き継いだため、ゼロから古民家を再生するような巨額の改装費用は抑えられました。町からの補助金と自己資金を活用し、スタート時の費用は130万円程度でした。布団やリネン類の更新も自己資金で賄っています。



利用者の心地よさを重視する

宿の宣伝においてはSNSを使い、他の人がやらない自分らしさを出すことを重視しています。

また、客室稼働率については、常に満室を求めておらず、40パーセント程度に抑えて、宿の落ち着きと1人で対応できる範囲で営業しています。

町中の宿としては、商店街などの中心地に、うるし塗りなどコト体験できるようなスポットが一つでもできれば、さらに面白い余白になると考えています。飲食店については、繁忙期に一時的に足りなくなることはあっても、普段はちょうど良いバランスです。

街の中には、若手の移住者や新しく事業を始めている仲間たちのネットワークがあります。程よい距離感で情報交換や交流ができる環境があるため、孤独を感じる場面はありません。

まず一歩踏み出そう

難しく考えすぎて、最初からすべてを完璧に決める必要はまったくありません。今の仕事を辞めずに、副業や二拠点生活として大子町に関わることも一つの方法です。何度もこの地に通ううちに、自然と心地よいスタートのタイミングが見えてくるはず。まずは気軽に、この街へ足を運ぶことから始めてみてください。



岸本 和樹 さん

まちやど「Motomachi」

常陸大子駅から徒歩約5分、昭和レトロな商店街にあるゲストハウスです。個室やカプセルルームを備え、一人旅からグループ旅行、長期滞在まで幅広く対応。地元食材を使った朝食や創作イタリアンも楽しめ、街歩きや奥久慈観光の拠点として親しまれています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子650
■TEL　080-5725-0332

Instagram　web







Business DAIGO.09

大子町の特産品をもっと広める その思いをパンに込めて

大子で興す

神奈川県横浜市から移住し、大子町の特産品を生かしたベーカリーを営む比留間玲美さん。2021年1月に移住し、同年12月にMichiru Bakeryをオープンしました。外からの視点で見つけた大子町の魅力を、パンという形で発信しています。

大子の特産品で開業を決意

元々は神奈川県横浜市出身で、パン屋とは関係のない仕事をしていました。大子町には母方の祖父母が住んでおり、小さい頃から遊びに来ていたため、自然の中での暮らしの記憶が強く残っていました。

親になって横浜での暮らしに窮屈さを感じ、移住を検討するようになりました。調理師免許と料理教室での経験がきっかけで、大子町でのベーカリー開業を考え始めたのがはじまりです。

「やるなら横浜じゃないか」そんな思いもありました。しかし、外からの視点で大子町を見たとき、りんごやお茶など多くの特産品があることに気づき、これをもっと知ってもらいたいという気持ちが大子町での開業を後押ししました。

縁と補助金が開業を後押し

当店の最大の強みは、大子町の特産品を使ったパンです。「地域のものを扱っている」という明確なコンセプトは、お店の個性となり、町外での出張販売でも大子町の話題につながっています。

物件は、地元の大工さんとのご縁で紹介していただきました。地域で親しまれてきた建物を活用できたことが、この場所で開業する決め手になりました。

開業時には「大子町商店街空き店舗等活用支援事業補助金」や商工会の補助金を活用しました。申請時には役場や大工さんにも協力いただき、地域の支えを実感しました。



支えを力に歩み続ける

平日は地元の方、土日は観光客を中心にご利用いただいています。出張販売をきっかけにお店を知り、足を運んでくださるお客様も増えました。

一方で、パン作りから販売までを一人で担っているため、忙しい時期には手が回らず苦労することもあります。そんなときに支えとなるのが、同じ時期に起業した仲間の存在です。

同じ悩みや喜びを分かち合える仲間がいることは、大きな励みになっています。現在は製造・販売を中心に営業し、将来的には2階を飲食スペースとして活用したいと考えています。

開けた町で横のつながりを

朝の鳥の声や久慈川のせせらぎなど、日常の中で豊かな自然を感じられることが、移住して良かったと感じる瞬間です。四季の厳しさはありますが、それも大子町ならではの魅力だと思います。

町の方々は移住者にも温かく、地域の活動に触れる中で、自分の店だけでなく町全体を盛り上げたいという思いが芽生えました。移住して起業した仲間も多く、困ったときに相談し合える環境が、新たな挑戦を後押ししてくれています。



比留間 玲美 さん

Michiru Bakery

大子町商店街の元時計店をリノベーションしたベーカリー。「心が満たされ、幸せになれるパンを」をコンセプトに、体にやさしいパンを提供しています。大子町の特産品を使ったパンや焼き菓子も人気で、地域の魅力を発信するお店です。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子618-5

Instagram　web







Business DAIGO. 10

大子で興す

縁もゆかりもなかったまちが、自分で選んだ暮らしの場所になった

地域おこし協力隊として大子町にやってきた飯田さん。移住当初は縁もゆかりもない土地でしたが、多くの人との出会いをきっかけに起業を決意しました。雑貨店memeguruを拠点に、デザインや講師業など複数の仕事を組み合わせながら、自分らしい働き方を実践しています。

移住の決め手は人との出会い

前職は千葉県で働いていましたが、「いつか茨城に戻りたい」という思いがありました。そんな時に地域おこし協力隊の募集を知り、いくつかの候補地を検討していた中で出会ったのが大子町です。決め手になったのは、役場の方々との出会いでした。町内を案内していただいた際に、「このまちには面白い人がたくさんいるな」と感じました。さらに高校時代の同級生が大子町に住んでいたこともあり、「ここなら何とかやっていけそうだ」と思えました。

実は大子町には特別な地縁はありませんでした。転勤族の家庭で育ったため、一つの場所に長く住んだ経験もありません。それでも気が付けば大子町での暮らしは9年目。自分で選んだ土地の中で、最も長く過ごしている場所になりました。

起業を支えた空き店舗

地域おこし協力隊として活動する中で、「任期終了後は何をしようか」と考え始めたのが起業のきっかけでした。もともと雑貨が好きだったこともあり、「自分の好きなテイストの雑貨店をつくりたい」と考えるようになりました。大子町にはイベントも多く、地域の人たちが集まる文化があります。その中で、自分の店が新たな交流の場になれば面白いと思ったんです。

現在の店舗は、すでにリノベーションされていた空き店舗でした。住居スペースも含めて活用でき、初期費用を抑えながらスタートできたことは大きなメリットでした。協力隊時代に築いたご縁で物件を紹介してもらえたことも、今につながっています。



つながりが生む仕事

現在は雑貨店だけで生計を立てているわけではありません。デザイン制作や講師業、農家さんの商品デザイン、WEBサイト制作、イベント出店など、複数の仕事を組み合わせる「マルチワーク」を実践しています。

こうした仕事の多くは、協力隊時代に築いた人とのつながりや口コミから生まれたものです。地域との関係を大切にしながら活動することで、新しい仕事が自然と広がっていきました。大子町には、人の挑戦を応援してくれる風土があります。「競争」よりも「共創」の空気があり、お互いに支え合いながら前に進める環境だと感じています。

まず来て、話してみる

移住や起業を考える方に伝えたいのは、「まずは一度、大子町に来てみてほしい」ということです。特に住まい探しは、インターネットだけでは分からない情報がたくさんあります。地域の人と雑談をする中で、思わぬ物件情報や人とのつながりが生まれることも少なくありません。大子町には、少しおせっかいなくらいに親身になってくれる人たちがいます。そんな人との出会いが、新しい挑戦への大きな力になると思います。



飯田 萌美 さん

memeguru

大子町の商店街にある、旧歯科医院をリノベーションした雑貨店。県内や大子町ゆかりの作家によるアクセサリーや器、アート作品などを取りそろえています。1階ではイベントも開催され、人と地域、ものづくりがつながる温かな空間として親しまれています。

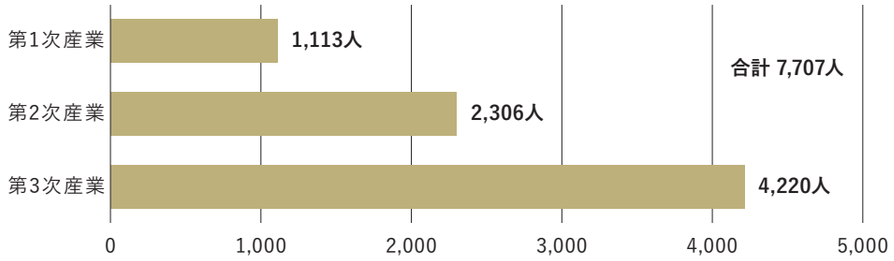
■住所　茨城県久慈郡大子町大子660-5
■TEL　070-8516-5758

Instagram　web

大子町を詳しく知る②

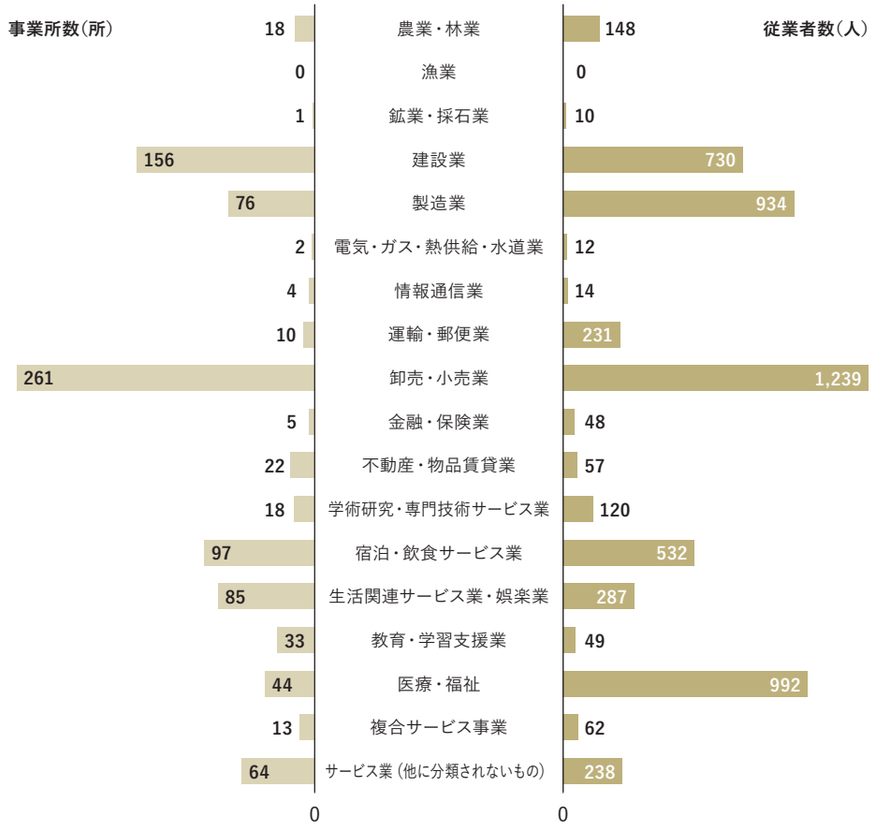
産業別就業者人口

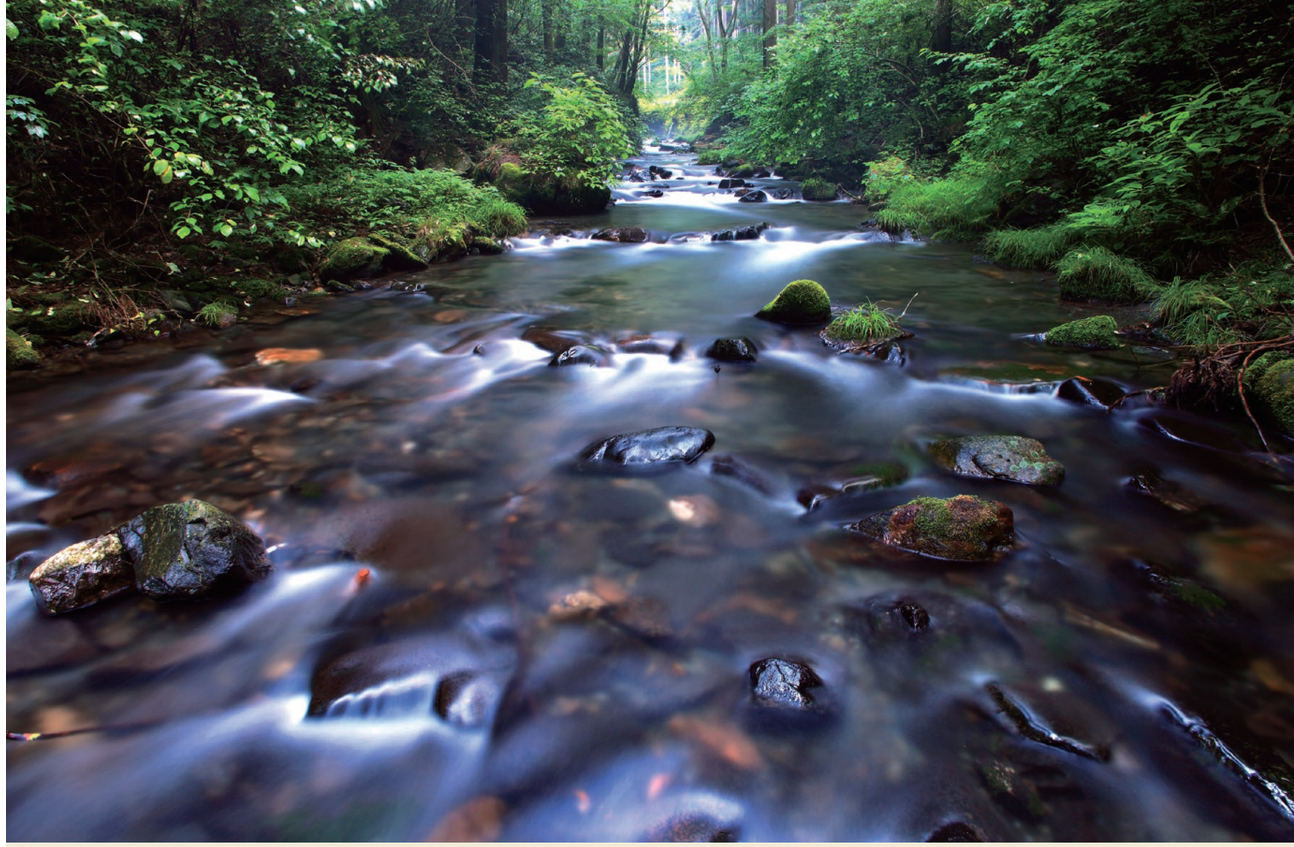
資料：令和2年国勢調査※合計は分類不能の産業を含む。



産業別民営事業所数・従業者数

資料：令和3年経済センサス－活動調査（単位：所・人）





働く

大子の仕事

はたらく、が暮らしになる。

山と川に抱かれた町で、

仕事と暮らしがゆるやかにつながる。

大子で活動する13の企業から、

新たな働き方を見つけてください。

Work

大子で働く

Work

DAIGO.01









地域とともに、大子町の道路と橋を守る。110年目の『インフラドクター』

創業110年を迎える海老根建設株式会社。公共工事を中心とした土木の会社として、大子町の「インフラドクター」を目指し、道路や橋を守り続けています。資格や経験がなくてもチャレンジできる環境が整っています。

地域のインフラを守る使命

私たちが掲げる企業理念は「地域とともに」。創業110年を迎え、今も大子町で建設事業を継続し続けています。道路や橋を診る「お医者さん」として、地域ナンバーワンのインフラドクターであろうという思いで仕事に取り組んでいます。

社内には「管理課（技術職）」「工事課（施工）」「建設ディレクター課（事務）」の3部門があります。事業は道路や橋の公共土木が中心で、崖の急斜面を補修する「のり面」工事も手がけてきました。

近年はドローン測量や3Dデータ処理などデジタル化を積極的に進めています。クラウド化で面倒な書類作業が減り、残業削減にも繋がりました。

男女が関係なく活躍できる環境

求めているのは前向きでチャレンジできる人。建設業界は毎年新しい技術が登場するため、「新しいことを吸収したい」という気持ちを大切にしています。もちろん知識や資格は不要です。資格取得にかかる費用は会社が負担し、本人が取りたい資格の取得をサポートしています。

また、女性も活躍できる環境づくりを進めています。重い荷物はアシストスーツや機械で対応し、男女別のトイレや更衣室も完備しています。シングルマザーの方も働きながら資格を取得できます。

未経験から成長し、長く安心して働ける環境を整え、一人ひとりの挑戦を会社全体で応援しています。

完全週休2日制で働きやすく

完全週休2日制で、建設業の中では比較的休みが多い方だと思います。子ども1人につき5日の子ども休暇やボランティア休暇なども用意し、社員が休みやすいように環境を整えています。

社員の半数ほどは大子町に住んでいる方です。残りは近隣市に在住しており、子育て世代の方もいます。特に常陸大宮市や常陸太田市から来る方は通勤ラッシュがないので楽とも聞きます。

建設ディレクター課はフルリモート勤務もOKです。フルリモートの方は副業もしているんですよ。デジタル化に力を入れて新しい働き方も積極的に導入しています。

建設業のイメージを変えたい

若い人の中には濃い人付き合いが苦手という人もいますが、大子は適度なアットホームさが魅力ですね。自然が近くて、四季折々の食べ物も美味しい。とても良い環境だと実感します。近所や周囲の方が子どもたちを見守ってくれるので、子育て世帯にはぜひお勧めの街です。

自分が入社した当時、現場には女性が2人でした。働き方は当時から大きく変わり、今は女性も安心して働ける業界になりました。従来の建設業界のイメージを変えることも大切な仕事の1つだと思っています。多くの方に建設業を働く選択肢に入れていただけるように、これからも努めていきたいです。



柳瀬 香織 さん

海老根建設株式会社

土木・建築工事を通して地域の暮らしを支える総合建設会社です。公共工事から民間工事まで幅広く手掛け、安全・品質を大切に施工を行っています。地域に根ざした企業として、技術力の向上と人材育成にも力を入れています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子1835-2
■TEL　0295-72-2608

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO.02









大子町で原木輸送を担う、唯一の運送会社。

安全運転を何より大切に

原木・木材輸送を主な事業とする株式会社大崎運送。山道でアームを使って積み込む技術が求められる原木輸送を、大子町で唯一手がける会社です。安全運転を何より大切にしながら、地域に根づいた運送業を続けています。

環境貢献に取り組む木材輸送

当社が主に手がけているのは、原木や木材の輸送です。山から取引先まで安全に運ぶことを使命としています。山道での積込み作業や、重く不安定な木材を安全に運ぶ作業は、運送業の中でも参入しにくい分野であり、大子町で木材輸送を主業とするのは当社のみです。

大子町は木々に囲まれた立地で、原木の生産地から近いことが大きな利点です。生産地と荷下ろし先が近い場合は、1日に何往復もでき、効率よく仕事を進められます。社員の7割が地元大子の居住者で、地域の雇用にも貢献しています。

2018年にはバイオマス発電に使われるチップの供給事業も始めました。山林にある未利用の木材を有効活用するこの取り組みは、地域の環境保全にも寄与しています。

安全を守ることが大切な仕事

業務はトラックで現場へ行き、アームを使って荷物を積み込み、荷下ろし先までアームで降ろすという流れです。力仕事に見えますが、実際に力を使う場面は少なく、女性も活躍できる職場です。

運送業で何より大切にしているのは、安全運転を守ることです。ハンドルを握ると人が変わってしまう人は採用していません。それ以外は、素直な性格であれば十分にやっていけると考えています。

仕事内容も、慣れてしまえば特別難しいものではなく、未経験でもハードルが低い職種です。離職率は低く、社員の入れ替わりも多くありません。

地域に根ざした働き方

勤務時間は基本的に月曜日から土曜日の8時～17時ですが、現場の状況によって流動的な部分もあります。ドライバーは日給月給制のため、稼ぎたい社員は日曜日に働きに出ることもありますが、労働基準の範囲内で安定して働くことができます。

これまでに、町外から入社した社員は全体の約3割です。北茨城市や常陸太田市、常陸大宮市など、居住地域は限定していません。無理なく通勤できる環境が、働き続けるための大切な条件です。

取締役もUターンで入社した一人です。大子町は昔ながらの良さが残る町で、近所の方との触れ合いも多く、都会では得られない温かさを、日々の仕事の中で感じています。

ここでしか体験できない町で働く

実際に職場を見学したり、社長と気軽に話せたりする機会があれば、移住希望者も安心して一歩を踏み出せます。

大子町には、都会では体験できないことがたくさんあります。昔ながらの近所付き合いがあり、夜には星空も美しく見える、温かい町です。不便さもありますが、それを超える幸福感があるはずです。

大子町の木々と自然を肌で感じながら働ける職場です。まずは一度、現場を見学しに来てみてください。



大崎 廣昭 さん

株式会社大崎運送

茨城県大子町を拠点に、地域の物流を支える運送会社です。一般貨物輸送をはじめ、木材の素材生産・運搬や産業廃棄物の収集運搬にも対応。安全・確実な輸送を通して地域産業を支え、長年にわたり地域社会に貢献しています。

■住所　茨城県久慈郡大子町小生瀬166
■TEL　0295-76-0475

大子で働く

Work

DAIGO.03









地域に必要とされる存在に。人々のパートナーを担う介護福祉施設

茨城県大子町で介護サービスを提供する久慈川荘。「地域になくてはならない存在であり続けること」を理念に掲げ、未経験者でも働けるサポート環境を整えています。利用者の方やご家族から感謝される喜びを糧に、職員も地域の方も一丸となって大子町で安心して過ごせる取り組みについて聞きました。

地域の信頼が仕事の原動力

社会福祉施設としての一番のこだわりは、地域になくてはならない、必要とされる存在であり続けることです。同時に、職員が心身ともに健康で、安心して長く働ける環境づくりも欠かせません。また、久慈川荘は大子町役場や地域のケアマネジャー連絡協議会と強固に連携し、町全体の高齢化社会を支える「福祉の適切な役割分担」を担い、地域に最も信頼されるパートナーであり続けたいと考えています。

年齢問わず丁寧に育てる

新しい仲間には、これまでとは違う地域や経験から得た視点を、チームに持ち込んでほしいと思っています。即戦力となる資格や経験があればもちろん嬉しいですが、未経験の方には担当職員を配置し、成長ペースに合わせて独り立ちできるまで丁寧に指導する体制があります。

私たちは入所者やご家族から感謝される存在であることを、何よりうれしく感じています。最近も若手職員へ、ご家族から感謝の言葉が届きました。介護は人間的にも成長できる仕事です。

また、資格取得やキャリアアップを積極的に応援しており、資格取得費用も施設が負担しています。

当施設は、定年が65歳ですが、雇用延長で70代の方もいます。下は、高校を卒業したばかりの方から、70代まで、年齢に関係なく働ける職場です。

福利厚生が整う安心な職場

給与以外では、会社が家賃を補助する「家賃補助制度」を独自に設け、職員から大変喜ばれています。また、職員向けのストレスチェックやメンタルヘルスケアなどの職員の健康維持や全館Wi-Fi整備を行うなどのデジタル化や、看護師の夜間オンコールの外部委託による負担軽減なども進めてきました。

職員の多くは大子町内に住んでいますが、隣接する市町村から車通勤する人もいます。都心に比べて渋滞がなく、快適な通勤環境です。買い物や外食、ネット通販も問題なく、生活に不便を感じるという声は特にありません。

自然と安心が共存する大子

大子町は地盤が固く、震災に強いので安心して暮らせます。自然が豊かなので、四季の移り変わりを感じ取れるのも魅力です。

例えば朝に山菜を採りに出かけ、昼間は仕事をがんばり、夜はその山菜を天ぷらにして家族で食べる。そんな生活ができることが、何よりの贅沢だと感じています。

町内のアップルラインやパノラマラインの景色は素敵で、地元民しか知らない滝つぼでの水遊びができる場所もある。大子町はまだまだ魅力がたくさんあるまちだと思います。



大髙 かほるさん
（施設長）

特別養護老人ホーム久慈川荘

1986年開設の介護福祉施設です。入所・短期入所・デイサービスなどを通じ、一人ひとりに寄り添った介護を提供。食事や入浴などの日常生活支援に加え、リハビリやレクリエーションを取り入れ、安心して笑顔で暮らせる環境づくりに努めています。

■住所　茨城県久慈郡大子町北田気551-1
■TEL　0295-72-2323

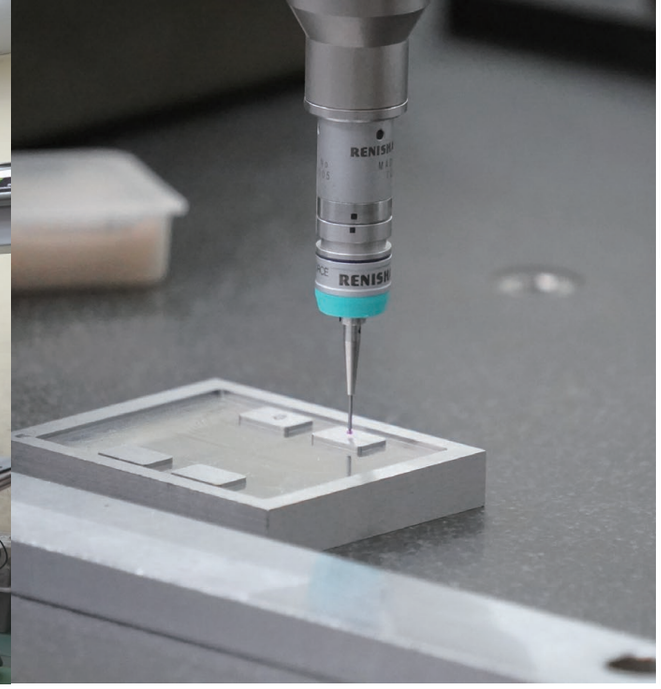
web　採用情報

大子で働く

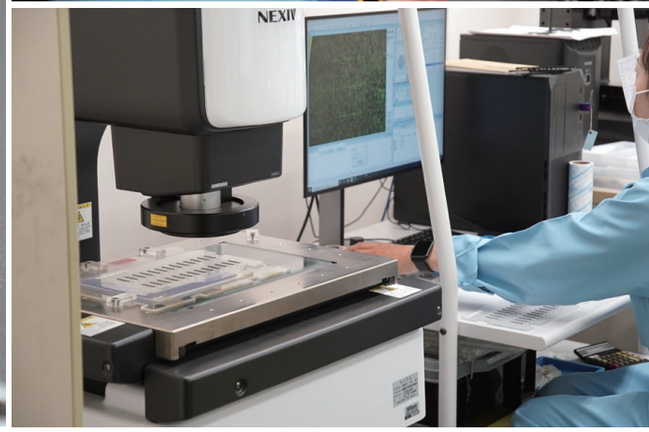
Work

DAIGO.04









高機能樹脂のスペシャリストが、大子から社会に新しい価値を届ける

プラスチックを素材としたものづくりのスペシャリスト、クラスターテクノロジー株式会社。同社は樹脂開発から精密成形・自社製品展開まで一貫して手がける東証スタンダード市場上場企業です。大子町の企業誘致を受けて進出した第一号企業として、地元雇用の創出を通じ、地域貢献を続けています。

上場企業の精密樹脂技術

当社はプラスチックを素材とするものづくりを行っています。独自の樹脂複合材料の開発から精密成形、自社製品の展開まで、すべてをワンストップで手がけています。素材の特性を熟知し、加工から自社ブランドとして市場に届けるまでを一貫して完結できることが、当社の強みです。

東証スタンダード市場に上場する企業として、高い技術力と信頼性を培ってきました。精密な樹脂成型には確かな技術力と管理体制が求められます。その高い品質水準が、幅広い業界のお客様に選ばれる理由となっています。

大子町とともに歩んだ深い縁

大子町の企業誘致を受けて進出した法人の第一号として、当社はこの地に根を下ろしました。大子町を東日本の拠点と定め、工場と営業所が一体となって製造・営業の両面から事業を支えてきた歴史は、私たちの誇りです。

創業時の役員に大子町出身者がいたことも、当社と地域との深い縁を物語っています。地域の人々とともに歩んできた歴史が、今の強い絆を築いてきました。

多くの地元出身者が活躍する一方、大阪府や栃木県など遠方から移り住んで働く社員もいます。堅実な経営を続け、地元における安定した就職先として、長年にわたり選ばれ続けてきました。

「日々新たに、社会に役立つ」という経営理念のもと、一時的な利益にとらわれず、社会貢献を通じて生まれる利益を追求しています。

チームワークで技術を磨く

営業・管理・生産技術・製造管理など、幅広いポジションで採用を行っています。各職種が連携して製品を世に送り出す体制が整っており、自分の適性に合った場所で活躍できます。

求めているのは、チームワークを大切にできる方、やる気のある方です。未経験でも努力次第で一流の技術を習得でき、入社後に素材に関する知識や技術を着実に身につけていくことができます。

勤務は月曜日から金曜日の8時15分～17時15分、休日は原則としてカレンダー通りです。

大子で仕事も余暇も楽しむ

「仕事は楽しく・余暇はもっと楽しく」、これが私たちの大切にしているスタイルです。仕事に向き合うこと、仕事を離れた時間を思い切り楽しむこと、その両方を大切にしながら働ける職場を目指しています。

大子では、川遊びや山遊びなど自然のアクティビティを身近に楽しむことができ、都会にはない魅力があります。メリハリのある生活を求める方にとって、仕事の後に豊かな時間を持てる環境は大きな魅力です。

利他の心を持ち、チームとして成長できる仲間を、大子の豊かな自然の中でお待ちしています。



藤田 雅之 さん

クラスターテクノロジー株式会社

クラスターテクノロジー株式会社は、高機能樹脂複合材料の開発から金型設計、精密成形、組立までを一貫して手がけるメーカーです。大子町の関東工場では、電子機器や産業機器向けの高精度部品を製造し、独自の技術力で国内外のものづくりを支えています。

■住所　茨城県久慈郡大子町浅川1212
■TEL　0295-72-5700

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO.05









日常と非日常が交わる場所を。
笑顔を生む人の感動を デザインする カフェ＆ゲストハウス

古民家をリノベーションした一軒家カフェ＆ゲストハウス「咲くカフェ」。カフェ・ベーカリー・ゲストハウスをはじめ、デザインや映像制作など多彩な事業を展開。「日常と非日常が交わる場所」を町の中に生み出し、地域の活性化につなげることを目指す企業です。

大子町に根ざすカフェとゲストハウス

大子町の中心部で民家（実家）をリノベーションしたカフェとゲストハウスを運営している他、デザインや音楽、映像の制作なども引き受けています。

商工会青年部や観光協会などの組織と連携しつつ、また「大子デパート」や「大子カフェネット」の運営をしていく中で、主にグラフィックデザインやブランディングデザインを自社外にも提供し、町全体のデザインの向上やブランディングに繋げてきました。その様な活動もあって地元に根ざす会社に成長できてきたかなと感じています。

「人と人」の関係づくりを大切に

現在、正社員・アルバイト問わず、カフェやベーカリーのスタッフを募集しています。未経験や異業種転職者も大歓迎。むしろチェーン店の接客経験がない方が向いている場合もあります。

人同士の距離が近い田舎だからこそ、「店員：お客さん」ではなく「人：人」として、チェーン店の決められた接客フレーズではなく、一人の人として接することのできる方が良いと思っています。

その他、地元の中学生の職場体験の受け入れや、地域の就労支援の受け入れも行っています。

地元の高校生のアルバイト受け入れも積極的に行い、こういった地方ではなかなか経験できない「社会のあれこれ」を経験して感じ取り、今まで持ち合わせていなかった「世界観」を広げて卒業していってもらえるように願っています。

地方ならではの生活環境

私自身、長く東京で暮らした経験から、大子町の自然の豊かさを実感しています。地元野菜を買いに行き、そこで生産者さんたちと言葉を交わしながら、野菜を買えることも貴重な価値の一つです。

同じように、スーパーに行けば顔見知りに会い、居酒屋に行けば誰かしらと話が弾み、近所の方が「今日は暑いね～」なんて言いながら気軽にお店に立ち寄ってくれる距離の近さも、この町ならではの魅力です。

都会とは全く違う日常があり、至るところに「人」らしさが溢れている町だと感じています。

ワクワクする町で一緒に

咲くカフェがオープンしてからまもなく10年を迎えます。これからも町に新しい風を生み出し、刺激を与えつつ、町の文化を向上させていくことを目指しています。

大子はこれからもっとワクワクする楽しい町になっていくはずです。咲くカフェで一緒に新しいことを生み出したい方、少しでも関わってみたい方はぜひ気軽に声をかけてください。



櫻山 啓三郎 さん

咲くカフェ合同会社

大子町の豊かな自然を生かし、カフェ・宿泊・地域交流を通して人と地域をつなぐ事業を展開しています。地元にある資源を使った「食・茶・甘・酒・泊」を提供し、地域に根差したおもてなしを大切にしています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子416-1
■TEL　0295-76-8320

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO.06









木を伐るだけじゃない、山を育てる仕事。

地球の環境を、大子で支える

林業を手がける有限会社鈴木木材。創業者の祖父から数えて三代目となる現在、「木を伐る」だけでなく「山を育てる」育林へと事業の重心を移しています。外国人スタッフ3名を含む計11名が働く、大子町の林業現場です。

山を育て次世代に届ける

大切にしているのは「いかに山を適切に管理していくか」という視点です。近年の大雨増加を受けて、植林から山を育て健全に戻す「育林」へと転換を進めており、次の世代に豊かな山をつなぐことが絶対に譲れないこだわりです。

祖父が大子町北西部の上野宮で会社を興し、こんにゃく農家を営みながら林業を兼業していた歴史があります。父の代で大型設備を導入して林業に一本化し、法人化しました。

大子町は会社数が減少し、若者の雇用環境も厳しさを増しています。だからこそ、移住者や地域住民が安心して働ける「雇用の受け皿」でありたいと考えており、林業の可能性は広がっています。

資格取得まで全力サポート

求めているのは「真面目で、言ったことをしっかり守る人」です。林業は未経験からスタートする人が大半で、当社でもスーパーや飲食店など異業種からの転職者がほとんど。テレビで林業特集を見て志望するケースも多くあります。

事前の資格や経験はほとんど必要ありません。重機にはアタッチメントごとに複雑な操作がありますが、すべて入社後に覚えれば十分です。安全を最優先に機械を正しく丁寧に扱えるかが重要です。

入社後は「緑の雇用※」を活用し、3年間で必要な資格を計画的に取得します。取得費用は全額会社負担、チェーンソーでの伐採や育林の基礎作業を先輩のサポートを受けながら覚えていきます。

働きやすさ、そして高い社会意義

住宅支援として、家賃の半額を会社が補助しています。大子町は地方の割に家賃相場が高く、良質な物件が少ないため、過去には空き家を買い取りリフォームし、自社賃貸物件として提供しています。

副業は本業に支障がない範囲で原則自由というスタンスです。2年に1回の社員旅行のほか、正月やお盆前の食事会も会社が全額負担する恒例行事で、チームの結束を高める大切な時間です。

林業の現場には同じ場所は二つとなく、マニュアルを暗記する退屈さはありません。常にその場で考えて挑む面白さがあります。「地球の環境を支えているんだ」と胸を張れる、圧倒的な社会意義の高さがこの仕事の魅力です。

人の温かさと山の恵み

大子町での暮らしは、住んでみると「意外と普通に暮らせる」というのが実感です。通勤は30分から1時間ほどかかることもありますが、渋滞はほとんどありません。移住者の住まいは地元のネットワークを活かして空き物件を探し、本人に選んでもらっています。地域に馴染むための特別なコツも必要なく、暮らしていれば自然と地域の一員になれます。近所の人がお裾分けをしてくれたり、道ですれ違えば気軽に声をかけてくれたりする温かな風土も魅力です。さらに、知見が身につけば山菜やキノコ採りを楽しめ、「奥久慈しゃも」のおいしさなど、大子町ならではの山の恵みを日常的に味わえる贅沢があります。

※未経験から林業に就業し、働きながら必要な技術や資格を段階的に学べる国の就業支援制度(林野庁補助事業)



鈴木 翔吾 さん

有限会社鈴木木材

地域の森林資源を活用し、伐採から搬出、育林まで一貫して手掛ける林業会社です。安全を最優先に、資格取得支援や住宅補助など働きやすい環境を整備。豊かな自然を未来へつなぎながら、地域の雇用を支える担い手として持続可能な林業に取り組んでいます。

■住所　茨城県久慈郡大子町上野宮1911
■TEL　0295-76-8737

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO.07









時計に命を吹き込む。大子町で受け継がれる、一生モノの技術

1972年創業の富士精工株式会社は、時計修理を専門とする企業です。国家資格の取得を後押しし、職人を育てています。地元の大子清流高校出身者からUターン就職者まで、様々な仲間が活躍しています。

時計に命を吹き込む職人技

創業当初はオリエント時計のムーブメント組み立てからスタートしました。クォーツ時計の台頭とともに完成品仕上げへと広がり、その後、時計修理専門へとシフト。現在は国内外の各メーカーの修理を手がけています。

同業の少ない地方では、転職も少ないため、技術や秘密を守り続けられる存在として各メーカーから信頼されています。

近年力を入れているのが、掛時計や置時計など「大物時計」の修理です。直せる職人が少なくなっており、腕時計専門の同業者が多い中で大物時計を扱える希少な技術を現在習得しています。

10年かけて育てる職人の道

地元の大子清流高校の卒業生を中心に、ゼロから職人を育ててきました。専門学校卒の採用や Uターン入社も増えており、2026 年には 3 人の新人が入社しています。城里町や兵庫県から来た社員も活躍中です。

一人前になるまで 10 年ほどかかりますが、じっくり腰を据えて育てる体制が整っています。国家資格「時計修理技能士」の受験費用は会社が全額負担し、合格すれば資格手当も支給されます。

修理の仕事は、分解から組み立てまでを 1 人で担当します。納期管理や段取りも含め、自分で仕事を進める力が求められます。

長く続けられる職人の仕事

住まいの面では、勤続5年未満の社員は家賃補助を、5年以上の社員については手取りを増やすことを目的とした、会社借り上げの社宅制度を利用できます。また、福利厚生の一環としての社員旅行など、仲間との時間も大切にしています。

時計の仕事は座って室内で行う作業のため、体力的に長く続けられるのが特長です。恩師の方は90歳まで現役で働き続けている方もおり、定年後も外注として活躍する70代後半のスタッフも現役です。

時計の産業には「水が綺麗で空気が綺麗」な環境が大切であり、大子町はその条件を備えた場所です。じっくり取り組める仕事の性質と、自然豊かな大子の環境が重なり、長く働き続ける土台が整いました。

一生モノの技術を大子町で

時計が組み上がり、再び時を刻み始める瞬間の感動は、何年経っても忘れられません。時計は世代を超えて受け継がれていく特別な存在であり、その時計に「命を吹き込む」のがこの仕事の醍醐味です。

将来的には、のれん分けやフリーランスのような形で、定年のない長い付き合いを目指しています。「自分の給料は自分で決めることができるようになりなさい」と若い社員に伝えています。

時計は、例えば、じいちゃんが使っていたものを自分が引き継ぎ、また次の世代へ渡していける存在です。その時計に命を吹き込み、時を刻ませ続ける。そんな一生モノの技術を、大子町で身につけてみませんか。



木村 政久 さん

富士精工株式会社

時計修理・組立の専門企業です。国内外のブランド腕時計の修理やオーバーホールをはじめ、OEM時計の製造・販売にも対応。国家資格を持つ技術者が多数在籍し、高い技術力で大切な時計をよみがえらせる「奥久慈時計工房」として全国から信頼を集めています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子313
■TEL　0295-72-1164

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO.08









体験というかかわり方を移住のきっかけに

藤田観光りんご園を訪ねて

藤田観光りんご園（合同会社フジタアップルオーチャード）は常陸大子駅から車で約10分の小高い丘の上にあります。代表社員藤田卓さん、妻の史子さんはりんご園の3代目。先代、先々代が共にりんご畑の開拓をし、町内の仲間とともに「奥久慈りんご」の産地の礎を築き上げました。行商から始まり60年、りんご狩りや直売はもちろん、加工品の販売や、様々な体験コンテンツを展開し、多くのファンが訪れるりんご園。そんな園の看板商品である『りんご園で焼いたぜいたくアップルパイ』を手掛ける史子さんにお話を伺いました。

オフシーズンのりんご園の楽しみ方

りんご園に嫁いで28年、自然豊かな里山の風景や時折現れる鳥や動物を見て「まるでジブリ映画や絵本のような世界で生活しているな」ととても幸せな気持ちになります。そしてその魅力を『絵本のようなりんご園』というコンセプトで、りんご園が賑やかな秋以外でもたくさんの人にもっと知って欲しいと思ったことがきっかけで、様々な楽しみ方を考えてきました。

今では、りんごの加工品の種類も増えましたし、期間直売所をリノベーションしたカフェスペースで焼き立てのアップルパイを食べたり、厨房でのアップルパイ作り体験ができたり、年間を通してお楽しみいただけるようになり、季節を問わずりんご園に足を運んでくれるお客様も増えました。

体験コンテンツの創出

りんご畑の作業は、年間を通して様々な工程があり、実際人手不足は重要な課題です。しかし、「人手不足というマイナスイメージの見方を変えて、それを体験コンテンツとして提供したら面白いのではないか。」と思いつき、教育旅行を企画しているエージェントを窓口に町外中学生の摘果体験、りんごの全収穫体験、剪定枝集め体験を実施してみました。反応は心配でしたが、思いのほか好評を得られ、今年で実施４年目になりました。

また、大学生のプレインターンシップを積極的に受け入れていることもあり、体験コンテンツ内容のブラッシュアップに協力してもらっています。今後は、企業の研修やレクリエーションに発展させ定着することが目標です。こういった体験を通して、観光の先にある大子町の一魅力を体感してほしいです。

副業として農とかかわる新しい暮らし方

大子町では仕事を持ちながら田んぼや畑に関わる暮らしが自然に根付いています。そんな働き方はとてもぜいたくな時間の使い方なのかもしれません。人口減少や高齢化という課題はむしろ新しい挑戦をするチャンスでもあると思います。すでにローカルベンチャー、二拠点居住で大子町と関わる方も増えてきて、これから暮らし方の選択肢はもっと広がっていくのでしょう。副業として週末だけりんごの作業をしてみる、観光のついでに農業を体験してみる。りんご園での様々な作業を通して、そんな選択肢を気軽に体験してもらい、それをきっかけに移住につながればうれしいです。インバウンドの来園も年々増えているので、海外の方へもその魅力を発信していきたいです。

絵本のようなりんご園へ遊びに来ませんか

四季折々の絶景が楽しめる大子町。焼き立てのアップルパイをご用意してりんご園でお待ちしています。



藤田 史子 さん

藤田観光りんご園（合同会社フジタアップルオーチャード）

おすすめの写真スポットは売店前の赤いドア。
りんごシーズンの常陸牛バーベキューや異業種とのコラボ、海外販売などの新しい取り組みにも積極的な農園で、親しみやすいご夫婦との会話も魅力です。

■住所　茨城県久慈郡大子町浅川400
■TEL　0295-72-5028　■10月1日～12月10日は無休

Instagram　web

大子で働く

Work

DAIGO.09









こんにゃく・湯葉づくりと介護、ふたつの顔。地域に寄り添う袋田食品

こんにゃくや湯葉、甘味の製造と、住宅型有料老人ホーム「アイタルホーム」の運営を手がける袋田食品株式会社。物価が上がる中でも品質を落とさないものづくりと、地域に根づいた介護サービスで大子町の暮らしを支えています。

品質と地域貢献を両立する

食品の製造では、原材料費や物価が上がる中でも、品質やサービスの水準を落とさないことを大切にしています。こんにゃくや湯葉、甘味の製造には必ず人の手を加え、機械だけに頼らず丁寧なものづくりを続けているのが特徴です。

会社の根本にあるのは、大子町への地域貢献を経営理念とする考え方です。食品製造と介護事業を通じて町が少しでも良くなるよう、満足してもらえるサービスを提供することを信念としています。

個性を尊重し思いやる職場

移住してくる方には、食品製造や介護での経験の有無にかかわらず、持っているスキルを発揮して欲しいと考えています。従業員同士が互いを思いやれる風通しの良さを大切にしており、働きやすい環境づくりを心がけています。

介護部門は女性職員が多く、25 歳から 70 歳まで幅広い年代が働いています。介護の経験がなくても、ざまざまな経験を活かせる職場です。介護スタッフには介護福祉士などの資格取得を勧めており、希望者には費用を会社が負担しています。

袋田食品では、従業員の希望に合わせた働き方を尊重しています。

地域独自の助け合い文化

自社製品には従業員割引が適用され、昼食も割引されるので、好評です。また、近所の方が持ってきてくれた野菜を入り口に置き、従業員は自由に持ち帰れます。地域ならではの助け合いの文化は従業員にも好評です。

従業員のほとんどは大子町内に住んでおり、車で通勤しています。買い物や外食、ネット環境についても特に不便はなく、通販なども活用できるため生活面での心配は不要です。

地域行事は以前ほど頻繁ではなくなっており、無理のない範囲で参加しています。「初めてなのでいろいろ教えてください」と相談すると、周囲も助けてくれて馴染みやすくなりました。

大子の豊かな自然のめぐみと暮らし

久慈川の鮎やモクズガニなど、都会では味わえない食材を楽しめるのが大子町ならではの贅沢です。野菜やお米もおいしく、家庭で過ごす時間も増え、BBQや親戚の集まりも自然と増えました。

町内や近隣の病院への受診・搬送は滞りなく行えています。ただし、どこの地方でも同じ課題として、夜間の救急医療病院までの距離などに不安はありますが、一人暮らしでも困らないと感じています。

ITやネット環境の整備によって、地方でも不便なく仕事ができる時代です。二拠点居住も話題になっており、都内まで2~3時間で移動できます。つつじヶ丘公園や奥久慈の山々、夜の星空など、大子町の暮らしをぜひ体験してください。



高村 和成 さん

袋田食品株式会社（住居型老人ホーム アイタルホーム）

24時間体制で入居者の暮らしを支え、一人ひとりに寄り添った介護を提供。天然温泉や栄養バランスに配慮した食事、季節のレクリエーションを通して、安心で心豊かな毎日をサポートしています。

■住所　茨城県久慈郡大子町袋田2642
■TEL　0295-72-5311（採用担当）

Instagram　web

大子で働く

Work

DAIGO. 10









古いイメージを覆す ハイテク養豚。

話題の銘柄豚を 生み出す現場

養豚業を手がける有限会社常陸牧場。徹底した機械化を進めた環境で、銘柄豚「樅豚（ぶなぶた）」を生産しています。市場からも高い評価を得ており、大子を代表するブランドとして新たな道を拓く姿を紹介します。

最先端の養豚システム

自然豊かな環境で銘柄豚「樅豚」を生産しています。独自の飼育方法による優れた肉質が高く評価され、これまで多くの賞も頂きました。

大切にしているのは、肉質を高い水準で安定させ続けることです。機械化・オートメーション化を徹底しており、いわゆる泥まみれになるような手作業がありません。さらに効率化によって大幅に削減された時間は、豚の健康状態の観察に充てています。豚にストレスのかからない環境づくりに最も注力しています。

ある銀行から「大子町を背負って立つ会社になってほしい」と激励されました。ありがたいことに主要な出荷先の方々からも「もっと豚肉が欲しい」と言われています。この期待に応えるため、10年後を見据えた規模拡大を進めています。

未経験をゼロから育てる

求めているのは経験者ではなく、むしろ未経験者です。農場ごとに管理のやり方が大きく異なるため、他社での経験がかえって壁になることがあります。まっさらな状態から私たちのシステムを一から学んだ方が、互いに良い結果を生むと思いますね。

入社後は3カ月間の試用期間に、農場内4つのエリアをローテーションして全体の流れを把握します。その後は各エリアの担当者の下で実務を習得し、当農場独自の技術も先輩が付き切りで指導します。

リフレッシュできる環境を用意

住宅手当だけでなく、通勤手当も手厚くサポートしています。賞与は各持ち場の成果をダイレクトに反映させる仕組みで、各々のモチベーション向上にも繋がっていると感じます。昨年は業績が好調だったため、夏・冬・期末の3回支給することができました。夏場は不定期でBBQなど親睦の機会を設け、積極的にリフレッシュの機会をつくっています。スタッフ同士プライベートで交流するくらい仲がいい子が多いです。有給休暇に関しては積極的に取得するよう促しています。責任感の強いスタッフが多く皆遠慮しがちな傾向にあるので休むことに関しては自ら進んで背中を押すよう心がけています。

産休・育休も完備しており、若いスタッフがライフステージに合わせて長く働ける職場にできるよう努めています。

その目でリアルな現場を確かめて

実際、「動物が好き」という理由だけで応募してくる人は定着しないことが多いです。日々向き合っているのは「愛玩動物」ではなく、命を頂く「経済動物」です。その違いを理解する姿勢と、移住への強い意志を持った人が長く活躍しているように感じます。

何より「百聞は一見に如かず」というのが本音です。まずは大子町の農場に一度足を運んでみてください。古いイメージを覆す最先端のハイテク養豚の現場を、ぜひその目で確かめてみてほしいですね。働く人の真剣な表情や、徹底した衛生管理、最新設備が生み出す効率的な飼育環境を見れば、養豚のイメージがきっと変わるはずです。



矢吹 和人 さん

有限会社常陸牧場

大子町の豊かな自然の中で最新設備を導入した養豚を行う牧場です。徹底した衛生管理とデータを活用した飼育で、安全・安心な豚の生産に取り組み、地域の畜産業を支えています。未経験者の育成にも力を入れ、見学を通して現場の魅力を伝えています。

■住所　茨城県久慈郡大子町高柴4382
■TEL　0295-76-0111

web　採用情報

大子で働く

Work

DAIGO. 11









未経験からのスタートも歓迎。産業用車両を支える、ものづくりの現場

産業用車両のエンジンスターター関連部品を製造する株式会社三重工業。本社と左貫工場の2拠点で約60名が働いています。未経験者も歓迎し、従業員の7~8割が大子町在住という地域に根づいたものづくりの会社です。

地域とつながるものづくり

当社が製造しているのは、産業用車両のエンジンスターター関連部品です。本社と左貫工場の2か所で約60名の従業員が製造にあたり、主要取引先のAstemo株式会社と連携しながら事業を続けてきました。

大子町に住む約40人の方に、部品の組み立てなどの内職をお願いしています。農作業の閑散期に作業してもらうことも多く、就労に不安のある方にも配慮しながら、内職の受け入れを継続しています。

大子町は広い敷地を確保しやすく、物流面でも大きな混雑が少ないため、安定した生産・納品体制を築きやすい地域です。

まじめさで伸びる技術職場

未経験の方や異業種からの転職を考えている方も、募集しています。求めているのは、まじめで一生懸命に取り組める方、チームワークを大切にできる方を歓迎しています。

入社後はまず工場内のラインで作業を覚えていただきます。ベテラン社員から技術を受け継いでくれる人材を求めています。これまで現場では、品質・価格・納期・効率の4つの観点から改善を積み重ねてきました。

従業員の7~8割は大子町に在住しており、長く勤めている人も少なくありません。福島県や栃木県から通っている社員もおり、一度入社すれば地域に根を張りながら長く働ける職場です。

自然に囲まれた環境

休日は土日祝日が基本で、GWやお盆の時期には大型連休を設けています。主要取引先のAstemo株式会社と同じカレンダーで休日を調整しており、計画的に休みを取りやすい会社です。

大子町は自然が豊かで、アウトドア施設やゴルフ場も近く、充実した余暇を過ごせます。自然や農地が身近にあることも魅力の一つです。

暮らし始める前に知っておいてほしいのは、大子町の夏は暑く、冬は寒いということです。夏場の草取りは大変ですが、季節の自然とうまく付き合うことも田舎暮らしの醍醐味です。生活に必要な商店が揃っているので安心して暮らすことができます。

調べれば分かる大子の魅力

移住を考えている方には、大子町についてよく調べてほしいと思います。夜には綺麗な星、新緑や紅葉、雲海など四季折々の風景が楽しめます。住む場所の選択肢が広がっています。

未経験からでも一歩ずつ技術を身につけながら、長く地域に根づいて働ける環境が整っています。まじめに取り組みたい方であれば年齢や経歴は問いません。移住を考える方にとって、当社は理想的な働き場所だと思います。



綿引 利之介 さん

株式会社三重工業

1976年創業の自動車・産業機械向け電装部品の製造会社です。巻線・溶接・組立・ワニス処理まで一貫して手がけ、多品種少量生産に対応。品質確認装置を活用した不良ゼロ活動やISO9001取得など、品質第一のものづくりで信頼を築いています。

■住所　茨城県久慈郡大子町上金沢1690-3
■TEL　0295-72-8542

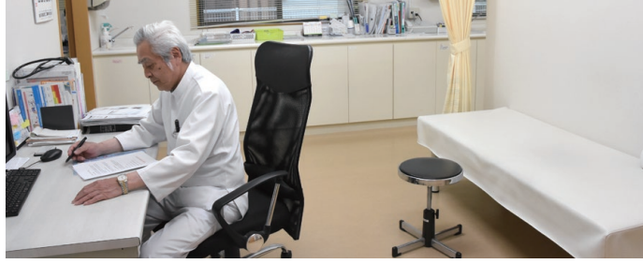
大子で働く

Work

DAIGO. 12









受診してよかった。勤めてよかった。
地域に根ざした、ワンストップの総合医療

大子町でかかりつけ医として地域医療を担う吉成医院。往診・入院にも対応し、近隣市町村からも患者が訪れるほどの信頼を積み重ねてきました。木曜休診・フレックスタイム・副業可と、働きやすい環境づくりにも力を注ぐ医療機関です。

地域を支える総合医療

当院は「かかりつけ医」という言葉が生まれるより前から、総合医療に取り組んできました。外来診療はもちろん、往診・入院にも対応し、矢祭町や常陸太田市など近隣市町村からも患者さんが訪れています。

高度医療を要するケースを除き、できる限りワンストップで診ることができるよう努めてきた結果です。地域の方々の「受診してよかった」という言葉が、積み重ねてきた医療への確かな手ごたえです。

学校医や産業医としても地域に関わってきました。幅広く取り組んできたからこそ、地域医療を担える自信があります。地方だからといって遅れた医療をやっているとは思っておらず、やりがいのある職場だと感じています。

働きやすさを徹底的に追求

若い世代にも働きやすい環境を用意したいという思いから、さまざまな制度を整えています。木曜日は休診とし、学会活動や医師としての研鑽に充てられるようにしました。フレックスタイム制も導入しています。

資格取得のための学費は幅広く支援しており、副業も認めています。年間で4カ月ほど休みがあり、病棟も外来に合わせて休日を増やしました。

雇う・雇われるという関係ではなく、同じグループの仲間として一緒に働いてもらいたいと考えています。だからこそ、働きやすい環境をしっかりと用意したいのです。

水害をともに乗り越えた一体感

令和元年の水害は、今も忘れられません。みんなで泥だらけになりながら復旧に当たり、職員だけでなく関係事業者の方々まで手伝いに来てくれました。その光景は今も心に焼き付いています。

被害の少ない病棟に機能を集中させながらの作業でしたが、みんな大変なのに嫌な顔をせず、笑い声さえ聞こえるほど。職員一丸となって一生懸命動いてくれました。

普段は意識しないけれど、「一体としてやってきたんだな」と深く感じたできごとでした。職員は、地域医療を支えようという想いが強い。忙しくても嫌な顔をせず、休む時はしっかり休む。そういうチームです。

移住した私だから伝えられること

滋賀医科大学を卒業後、関連病院を経て縁あって吉成医院を継ぎました。移住してきた一人として、大子町の自然が本当に好きです。仕事をしながら山や川、桜や紅葉を見られる環境は、来てみて初めてわかる楽しさがあります。

新しい道の駅ができるなど生活環境も良くなっており、買い物に困っている人はいません。大子町には優しい人が多く、新しい人を受け入れる空気があります。町全体がやる気にあふれていて、防災や生活基盤の整備にも力を入れている町です。

私も移住してきた一人だからこそ、安心して来てほしいと心から伝えたいです。これからの地域医療を一緒に担ってください。



吉成 尚 さん

医療法人社団芳尚会 吉成医院

地域に根ざしたかかりつけ医として、内科・胃腸内科・整形外科・リハビリテーション科など幅広い診療に対応。入院設備や在宅医療も備え、地域住民の健康を支える医療を提供しています。介護施設や基幹病院とも連携し、安心の医療体制を整えています。

■住所　茨城県久慈郡大子町大子813-1
■TEL　0295-72-0555

web

大子で働く

Work

DAIGO. 13









うまい棒、発祥の地から。「うまい」を届け続けるお菓子づくりの現場

「うまい棒」をはじめとするお菓子を製造するリスカ株式会社の大子工場。1979年の操業開始以来、日本全国そして海外にも届けられています。タレやパウダーも自社で手がける、ものづくりへのこだわりが光る現場です。

うまい棒が誕生した工場

大子工場で作っているのは、おなじみの「うまい棒」全8種類です。1日に生産する「うまい棒」の数は、なんと約90万本から100万本という規模です。9月から3月ごろの冬の時期には、チョコレート菓子「チョコ棒」の製造も加わります。

私たちの強みは、誰もが知る「うまい棒」というネーミングそのもの。約40年にわたり親しまれてきたこの名前は、創業者が生み出したものです。味付けに欠かせないタレやパウダーも、全て自社で製造する体制を長年かけて築いてきました。

この大子工場は「うまい棒」が誕生した発祥の地。他の工場に負けないものづくりへの思いを大切にしています。会社の利益は働く人に還元されるという考え方のもと、フィルム一つ無駄にしない姿勢を日々の作業の中で心がけています。

まじめな姿勢が何よりも武器

工場では 80 人から 90 人ほどのスタッフが働いています。この仕事で大切なのは特別な経験やスキルより、まじめに取り組む姿勢です。製造現場はチームワークが重要なので、明るさや人当たりの良さがあると向いているかもしれません。

作業は、うまい棒の生産・製造・選定などを機械と手作業の両方で行います。うまい棒の発祥した工場として、他の工場よりクオリティの高いうまい棒を作っていると自信があります。働く方にもそういった誇りを大事にしていただきたいと思いますね。

温かい地域に根ざした職場

大子町の魅力としてまず挙げられるのは、豊かな自然環境です。空気や水がおいしく、お米や野菜、果物などの食べ物も格別においしいと感じています。田舎のイメージはあるかもしれませんが、暮らしのうえで不自由に感じることはほとんどありません。

移住してきた人も温かく迎えてくれる雰囲気があり、住んでみれば、思っていたより居心地がいいと感じられるはずです。

地域の人とのつながりも温かく、困ったときには自然と助け合える安心感があります。子育て世代から単身者まで、それぞれが自分らしく暮らしやすい環境が整っています。

発祥の地で、ともに働こう

大子町への移住を考えている方には、ぜひ一度足を運んでみてほしいというのが、率直な思いです。移住した方に「住んでよかった」と思ってもらえるように、住民一人ひとりが温かく迎える気持ちを持つことを大切にしたいですし、私もその一員でありたいです。

大子から新しい一歩を踏み出す人を、リスカ大子工場は両手を広げてお待ちしています。まずは気軽に見学に来てください。

工場では未経験から活躍している社員も多く、先輩たちが丁寧にサポートするので安心して仕事を始められます。豊かな自然に囲まれた大子町で、新しい暮らしと仕事を一緒に始めてみませんか。



大髙 昇 さん

リスカ株式会社 大子工場

「おいしさのハートランド」を掲げ、誰もが知る人気のお菓子づくりを支える製造拠点。操業開始より、一番最初から「うまい棒」を製造している工場としても知られています。製造から検品・梱包まで、安心・安全でおいしい商品づくりに取り組んでいます。

■住所　茨城県久慈郡大子町矢田331-1
■TEL　0295-72-4111

web　採用情報

Life 暮らし

移住してみたいと思ったら、まず知りたいのは毎日の暮らし。住んでわかる、便利な点や気になるポイントをご紹介します。



	意外に便利な点	不便な点・注意点
交通・アクセス	町内は渋滞がほぼなく、快適。 特急や新幹線を使えば、都心まで 2時間台のアクセスが可能。	車が必須。最寄りのIC、 新幹線駅まで車で1時間。 夜間の移動・外食は選択肢が少ない。
買い物・日常生活	日用品は町内で揃い、 通販の活用で不自由を感じにくい。 配送料も関東圏料金。	スーパー・飲食店の閉店が早く、 夜の娯楽は限られる。
住まい	空き家・空き店舗・土地の 活用余地が大きく、 初期費用も抑えやすい。	賃貸は少なく、空き家は 改修費などの負担に注意。
起業・就労	初期費用が安く済むうえ、 競争が過度でなく、起業しやすい。	人材確保が難しく、 一人営業になりやすい。
人との距離感	程よい距離感で、 移住者にオープンな町。	挨拶やご近所付き合いなど、 都市部とは異なる習慣が ある地域も。
自然・暮らしの質	山・川・星空・静けさが日常にあり、 生活満足度が高い。	夏は暑く、冬は寒い。 虫・雪・水道や路面凍結への 備えが必要。
医療・防災	地域の助け合い意識があり、 防災意識も高い。	万が一の夜間急患や 専門医療に備えた、 病院情報の事前把握が必要。
子育て・家族生活	豊かな自然に囲まれた町 ならではの、のびのびとした 子育て環境。	少子化に伴う学校の 小規模化など、地方部ならではの 現状もある。

Support 支援

移住を検討するうえで気になるサポート体制。住まい・仕事・子育てなど、移住後の暮らしを支える主な支援制度の一部をご紹介します。






住まい

わくわく茨城生活実現事業における移住支援金 …… まちづくり課
東京23区（在住者・通勤者）から大子町へ移住し、対象企業への就職や就農等、条件を満たした方に支援金を交付します。

空き家バンクリフォーム助成金 …… 建設課
空き家バンク登録物件のリフォーム費用を補助します。（移住者のみ）

空き家片付け支援補助金 …… まちづくり課
空き家バンク登録物件の片付け費用を補助します。（1物件1回。所有者または移住者）

仕事

サテライトオフィス等進出支援事業補助金 …… まちづくり課
町内にサテライトオフィス等を開設する方に対し、開設費用や開設後の経費を補助します。

地域おこし協力隊制度 …… まちづくり課
地域の魅力を発掘・発信しながら、自身の特技や関心を活かした地域活性化事業に取り組みます。

大子町認定農業者育成支援事業補助金 …… 農林課
農業経営の改善や規模拡大を目指す認定農業者・新規就農者に対し、機械・施設の導入費用等を支援します。

結婚・子育て

結婚新生活応援補助金 …… まちづくり課
新婚世帯のスタートを支援するため、新生活にかかる住宅取得費、家賃、引越し費用等を補助します。

新生児すくすく祝金事業 …… 健康こども政策課 こども家庭センター
新しい命の誕生をお祝いし、健やかな成長を願って祝金を支給します。

自然 Nature

四季が彩る、大子の自然

春は花々、夏は清らかな水辺、紅葉に染まる秋、澄んだ空気と星空を楽しむ冬。山々や清流に恵まれた大子町では、四季折々に表情を変える自然が暮らしのすぐそばにあり、心豊かな時間を育みます。



茶畑

昼夜の寒暖差ややわらかな朝霧の中で育まれる奥久慈茶。約400年にわたり、この地で茶づくりが受け継がれています。



星夜

都会ではなかなか見られない満点の星。澄んだ夜空を眺めるひとときは、日々の暮らしにやすらぎを与えてくれます。

国名勝 袋田の滝

四季ごとに異なる表情を見せ、雄大な自然を間近に感じられる袋田の滝。日本三名瀑の1つでもあり、大子町を代表する風景です。





旧上岡小学校

明治時代に建てられた旧上岡小学校は、県内最古といわれる現地保存の木造校舎。古き良き学び舎は、映画やドラマのロケにも使われています。



古民家

大子町には歴史ある古民家が点在。昔ながらの風情を残しながら、店舗や施設として活用され、新たな魅力を生み出しています。



商店街

常陸大子駅前の商店街には、今もレトロな町並みが残っています。イベントや祭りなども開催され、大子町で暮らす人々に親しまれる場所となっています。

歴史 History

歴史を紡ぐ、大子の風景

昔ながらの建造物や町並みが多く残る大子町。時を重ねて受け継がれてきた歴史や人々の営みが、どこか懐かしく、あたたかな町の風景を今に伝えています。

Food 食

自然が育む、大子の豊かな食

豊かな自然、清らかな水、昼夜の寒暖差などによって育まれる大子町の食。茶、鮎、りんご、米、こんにゃく、しゃもなど、1年を通してさまざまなおいしさが日々の暮らしを彩ります。



奥久慈しゃも

雄大な自然の中でのびのびと育つ奥久慈しゃもは、大子町が全国に誇る味覚のひとつ。観光客にも人気で、低脂肪で引き締まった肉質、噛むほどに広がる濃い旨味が魅力です。



清流・久慈川の鮎

久慈川で育つ鮎は、大子の夏を知らせる風物詩。香ばしい塩焼きなど、食を通して自然の恵みを身近に楽しめます。

奥久慈りんごとアップルパイ

樹になったまま完熟させる奥久慈りんごは、みずみずしく甘みがたっぷり。町内には多数のりんご園が点在しており、園ごとに趣向を凝らしたアップルパイやジュースなども幅広く親しまれています。







花火大会と灯籠流し

久慈川を彩る花火と川面を流れる数千もの灯籠。
人々が集い、世代を超えて受け継がれてきた風景です。

常陸國YOSAKOI祭り

関東最大規模のよさこい。毎年、茨城県内外からたくさんの踊り子が参加し、賑わいを見せます。演舞を間近で見られる商店街の流し踊りは、圧巻の迫力。



百段階段でひなまつり

十二所神社へ続く百段の階段に、約1,000体ものひな人形が並ぶ春の恒例行事。普段とはひと味違う風景を見るため、町内外から多くの人が訪れます。

Festival 祭り

風土が息づく、大子の祭り

春夏秋冬、自然豊かな大子町では、さまざまな祭りやイベントが開催されています。地域に受け継がれる伝統行事や催しは、四季折々の風景とともに、暮らしの一部となっています。

ACCESS

車でのアクセス

■ 東京方面から約2時間

常磐自動車道三郷ICから那珂ICを経由し、国道118号で大子町へ。

■ 矢板方面から約1時間10分

東北自動車道矢板ICから国道4号、国道293号で那珂川町を経由し、国道461号で大子町へ。

鉄道でのアクセス

■ 東京方面から約2時間30分

・上野駅からJR常磐線特急で水戸駅へ。水戸駅でJR水郡線に乗り換え、常陸大子駅へ。

・東京駅から東北新幹線で那須塩原駅へ。那須塩原駅から車に乗り、国道461号で大子町へ。（約2時間20分）

高速バスでのアクセス

■ 東京方面から約3時間

東京駅八重洲南口から高速バスに乗車し、袋田の滝入口、やみぞ前などで下車。

LOCATION

豊かな自然や温泉、

四季折々の味覚に恵まれた大子町。

町内の主な見どころや施設を

地図でご紹介します。

地域の魅力や、ここでの暮らしを

知るきっかけとしてご覧ください。



大子町MAP



INDEX

興す／大子で起業

Business

7　大谷石の蔵サウナと古民家宿 DAIGO SAUNA

9　川口さん

11　コーヒーと家具のお店 hajimari

13　古民家レコード「MELLOW」

15　軍鶏と林檎

17　大子のいいもの「大子商店」

19　ホシノガラス

21　まちやど「Motomachi」

23　Michiru Bakery

25　memeguru

働く／大子の仕事

Work

29　海老根建設株式会社

31　株式会社大崎運送

33　特別養護老人ホーム久慈川荘

35　クラスターテクノロジー株式会社

37　咲くカフェ合同会社

39　有限会社鈴木木材

41　富士精工株式会社

43　藤田観光りんご園（合同会社フジタアップルオーチャード）

45　袋田食品株式会社（住居型老人ホーム アイタルホーム）

47　有限会社常陸牧場

49　株式会社三重工業

51　医療法人社団芳尚会 吉成医院

53　リスカ株式会社 大子工場

Editors' Voice
編集後記



大子町役場職員（官）と常陽銀行グループ社員（民）がタッグを組み、大子町の名産にちなんだ「2人組」チームを結成しました。町内23の事業者の皆さまを訪ね、仕事への想いやこれからの夢、そして大子で働くからこそ感じられる豊かな時間について、じっくりとお話を伺いました。

袋田の滝チーム

今回のプロジェクトは、取材先の皆様に実際にお会いしてお話を伺うことで、普段何気なく見過ごしてしまいがちな町の魅力を、あらためて見つめ直す機会となりました。この一冊には、大子町で活躍する皆さんの工夫やこだわり、そして熱い想いがたくさん詰まっています。移住や新しい挑戦には不安がつきものですが、手に取ってくださった方の背中をそっと押し、新たな一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。取材にご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。大子町の魅力が多くの方に届き、訪れてみたい、関わってみたいと思っていただければうれしく思います。

奥久慈りんごチーム

今回の企画の中で、大子町へ移住した方、大子町で暮らしている方や二拠点で活動している方など、色々な立場の方からお話しを伺いました。実際にインタビュー活動を通じて町に入っていくと、これまで過疎の町といったぼんやりとした印象から、皆さんの視点から見た大子町の魅力を知ることにより町の解像度が上がった感じがします。移住や二拠点生活に興味を持っている方の、何かのきっかけには必ずなりますので、まずは一度足を運んでもらいたいと思いました。

奥久慈しゃもチーム

この取材を通して、皆さんの大子町を盛り上げたいという熱意を強く感じました。また、大子町は自然や食べ物、暮らしぶりなどに魅力がありますが、それに加えて、他に代えがたい“人の温かさ”があることを改めて実感しました。今回取材にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

常陸大子駅チーム

取材を重ねるたびに、大子町の魅力を改めて感じました。灯台下暗しと言うように、身近なものほど、その良さに気づきにくいものです。そして、出会った皆さんそれぞれに物語があり、その中心には確かな熱がありました。シェイクスピアの「この世は舞台、人はみな役者だ」という言葉があります。今回の舞台は大子町。劇の名は「ここから。大子ライフ」です。これから新しい役者が加わってくれることを楽しみにしています。

大子温泉チーム

今回のインタビューを通して、企業の皆様や移住者の皆様の大子町への強い思いを感じました。また、これまで知らなかった大子町の魅力を知ることができ、ますます大子町のことが好きになりました。皆様もぜひ、魅力がいっぱいの大子町に一度足を運んでください！

ここから。大子ライフ

新しい人生に、ちょうどいい町、大子町

発 行 日　2026年9月15日
発行者名　官民協創プロジェクトチーム（大子町・常陽銀行・常陽産業研究所）

本誌掲載の情報は2026年9月時点のものです。無断転載・複製を禁じます。
©2026 Public-Private Co-Creation Project Team
(Daigo Town, Joyo Bank, and Joyo Industrial Research Institute). All Rights Reserved.

迷ったら、大子へ。
人生の続きは、ここから。

問い合わせ先
大子町役場 まちづくり課
〒319-3521 茨城県久慈郡大子町北田気662
TEL.0295-72-1131 ／ FAX.0295-72-1167